

GBP / JPY 英ポンド円 月次レポート

前月振り返りと2026年8月の相場展望

発行日

August 4, 2026

対象期間

7月実績 / 8月展望

通貨ペア

GBP / JPY

発行頻度

Monthly

7月末レート（終値）

212.587

▼ -1.39%（7月月間騰落）

7月高値

219.605

7月安値

212.340

BOE金利

3.75%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

7月は215.59円からスタートし月央に219.61円まで上昇したが、月末にかけて反落し212.59円で引け、月間-1.39%となった

BOEは7月30日に6対3で3.75%を据え置き。3名の委員が4.00%への利上げを主張して反対し、タカ派寄りの姿勢もうかがえた

日銀は7月30～31日に政策金利を1.00%で据え置き。植田総裁は先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

月末にかけてドル円で7月31日に日米協調の円買い介入が実施され（財務省が8月3日公表）、その円高がクロス円に波及してポンド円も下押しされた

8月 基本シナリオ レンジ

208 – 216円

BOE・日銀とも次回会合は9月。円相場と英指標が焦点（確率50%）

英日政策金利差

2.75pp

BOE3.75% – BOJ1.00%。前月と同水準

始値

215.587

7月1日

高値

219.605

月中最高値

安値

212.340

月中最安値

月間騰落

-1.39%

-3.000円

7月の相場動向

7月のポンド円は**215.59円**でスタートし、**月央にかけて219.61円まで上昇**する場面があった。BOE内でタカ派寄りの見方が意識されたことなどが、月前半のポンドを支えたとみられる。もっとも**月末にかけては212.59円まで反落**して引け、月間-1.39%となった。

BOEは7月30日に6対3で据え置きを決めた。3名の委員が利上げを主張して反対したものの、英6月CPIが2.6%へ鈍化したことや、ドル円主導の円高が波及したことがポンド円の重しとなったとみられる。ドル円では**7月31日に日米協調の円買い介入が実施され**（財務省が8月3日公表）、これが月末の円高の主因となったとみられる。英日金利差は2.75ppと引き続き大きい。

主要イベントの影響

GB BOE 7月30日 据え置き

6対3で3.75%を据え置き（5会合連続）

グリーン（Greene）・ピル（Pill）・マン（Mann）の3委員が4.00%への利上げを主張し反対

英6月CPIは前年比2.6%へ鈍化（約15カ月ぶりの低水準）と報じられた

JP 日銀 7月30～31日 据え置き

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.00%で据え置き、賛成多数（8対1）で決定

高田審議委員は追加利上げを求めて反対。植田総裁は会見に復帰した

植田総裁は物価上振れリスクに言及し、先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

7月の総括

7月はBOEが6対3で据え置きを決め、3名が利上げを主張するなどタカ派寄りの姿勢もうかがえた。もっとも、月末にかけての円高がポンド円を押し下げ、月間-1.39%となった。この円高は、ドル円で**7月31日に実施された日米協調の円買い介入**（財務省が8月3日公表）が主因とみられる。英日金利差は2.75ppと大きいものの、円買いの強まりが上値を抑えた。8月はBOE・日銀とも会合がなく、円相場と英経済指標が方向性を左右しやすい。

8月の注目ポイント

8月はBOE・日銀ともに会合が予定されていない（いずれも次回は9月）。ポンド円は、ドル円主導の円相場と英国の経済指標の影響を受けやすいとみられる。BOE内では利上げを主張する委員が2名から3名に増えており、英国のサービス業インフレなどが高止まりすればポンドが支えられる可能性がある。一方、円買いが強まる局面ではクロス円全般が下押しされやすい。金利差の大きさから下値では押し目買いも入りやすいとみられる。

シナリオ別レンジ予測

 強気	30%	英指標が底堅くBOEの追加利上げ観測が意識される	213 – 218円
 基本	50%	BOE・日銀とも会合がなく、円相場にらみのレンジ推移	208 – 216円
 弱気	25%	円買いの強まりや英景気の減速でポンド円下落	204 – 210円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
ドル円主導の円高	中	円高	ドル円の下落がクロス円に波及すればポンド円も下押しされやすい
英インフレの再加速	中	ポンド高	サービス業インフレ等が高止まりすればBOEの利上げ観測が強まり、ポンドが買われやすい
日銀の早期追加利上げ観測（9月）	中	円高	9月の追加利上げ観測が強まれば円買いが優勢となりやすい
英景気・雇用の悪化	中	ポンド安	景気減速が意識されればBOEの利上げ観測が後退しポンド売り

8月の見通し

基本シナリオは**208～216円のレンジ**（確率50%）とみている。英日金利差は2.75ppと大きく下値は限定的との見方がある一方、円買いが強まる局面では上値が重くなりやすい。8月はBOE・日銀とも会合がなく、**円相場と英経済指標**が主な材料となりやすい。9月に両中銀の会合を控え、値動きが大きくなる可能性にも留意したい。

用語解説

BOE（イングランド銀行）

英国の中央銀行。7月は6対3で3.75%を据え置き。3名が利上げを主張した。次回は9/17。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月に1.00%へ利上げ後、7月は据え置き。植田総裁は利上げ路線を維持する考えを示した。次回は9/17-18。

クロス円

米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。ポンド円はドル円とポンドドルの動きに影響を受けやすい。

MPC

BOEの金融政策委員会。9名の委員が投票で政策金利を決定する。7月は6対3で据え置き。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。BOE3.75%とBOJ1.00%の差は2.75pp。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し金利差収益を狙う取引。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。